

杏林大学医学図書館における認定看護師教育課程研修生への文献検索講習の実施状況

野中沙矢香

杏林大学医学図書館

1. 背景

杏林大学医学図書館（以下、当館）では附属病院で開講されている集中ケア認定看護師教育課程（以下、本院教育課程）教員の依頼により、研修生を対象に2009年度から文献検索講習を行っている。開始した当初は、医中誌 Web など国内の文献データベースだけでなくPubMed、CINAHL、Cochrane Libraryの演習時間を設け、研究デザインの説明も行っていた。しかし、英語のデータベースを初めて扱う研修生も多く習熟度があまり高くなかった。また、まずは当館の利用に支障がないようにしたいという理由もあり、2011年度にCochrane Libraryと研究デザインの説明を中止し、2012年度以降は国内の文献データベースのみの講義に切り替えた。

2017年度末に「認定看護師であれば、海外の論文を読むことも必要なのでPubMedの講義を行ってほしい」と本院教育課程の講師からの要望があったが、2018年度の文献検索講習時間内にはその要望を取り入れることができなかった。そこであらためて、今までの検索講習の内容や講義内で研修生に行ったインタビュー、受講アンケートの結果などを振り返り、更に認定看護師などの臨床看護師が取得できる資格やその資格取得のためのカリキュラム、動向を確認して、次年度以降の文献検索講習に反映させたいと考えた。

2. 研修生の状況と講習内容

本院教育課程研修生の9割は基幹型臨床研修病院に所属しているため、その所属病院には概ね図書室があると思われる。しかし2017年度、2018年度に行ったインタビュー結果によれば、必要な資料がないなどの理由から所属の図書室・館を利用していないという回答がみられた。更に、所属に文献データベースが導入されているという回答は多かったが、利用状況には差が見られた。看護研究で少し利用した程度という回答が大多数であったが日常的に利用している、全く文献データベースを利用したことがないという回答もあった。このように研修生間で文献データベースや図書館利用経験に差があるため、本院教育課程在籍中に必要な図書館利用方法を習得することを優先させ、まずは図書館ガイダンスや蔵書検索に重点を置くのがよく、本院教育課程講師の要望であるPubMedなど英語のデータベースの説明は講習とは違う機会に行うのが望ましいことがあらためて確認できた。

3. 今後の課題

臨床看護師が取得できる資格には認定看護師以外にも様々なものがあり、大学院修了が前提の資格もあれば、そうではない資格もある。いずれの資格においても文献検索や必要な情報の入手ができることを求められるが、文献検索経験がほとんどない臨床看護師や研修修了後に文献入手が十分にできない環境にある臨床看護師もいる。それらの点に配慮した講習内容の設定、講習以外での支援を行っていく必要がある。